

■ マヌカハニーのピロリ菌に対する抗菌作用

Mean zones of inhibition (diameter, mm+SD)*		
Isolates of H pylori	40% (v/v) Manuka honey	20% (v/v) Manuka honey
After 48 h incubation		
A	22.3 (+1.2)	17.5 (±3.5)
B	23.7 (±1.5)	16.3 (±1.5)
C	22.3 (±2.1)	15.0 (±1.0)
D	23.0 (+0.0)	17.0 (+1.0)
E	25.6 (±0.6)	21.5 (±2.1)
After 96 h incubation		
A	17.7 (±0.6)	0
B	20.7 (±1.5)	14.0 (±1.7)
C	18.3 (±2.1)	0
D	16.0 (±0.0)	0
E	25.0 (+0.0)	19.5 (0.7)

胃潰瘍の人の胃から得た5つのピロリ菌分離株を用い、寒天平板法による抗菌性試験を行いました。

48時間培養後では、マヌカハニーの40%溶液・20%溶液ともに阻止円ができ、抗菌作用が認められました。

更に96時間まで培養すると、マヌカハニー20%溶液では3つの分離株で阻止円はなくなりましたが、残り2つの分離株で抗菌性が示されました。マヌカハニー40%溶液では全ての分離株に対して抗菌効果が持続していました。(表-1)。

Ref: N. A. Somal et al; *Journal of the Royal Society of Medicine*, Vo.87, Jan. 1994 ; 9-12